

2) 全体討議 条例の目的は

前回までの議論を踏まえ、小グループで議論したのち、全体討議を行いました。

<発表>

1 班

- 「市民」が参加活動するための権利・責任を明らかにする。
- ・行政も積極的に市民活動に参加してほしい。
 - ・個々の議員さんの活動が見えにくい。市民の関心が薄いという側面もある。
 - ・いろんな案件を市民は後から知る。見えにくい。議会はほとんどすべてすんなり通る。これらに対して、自分たちの思いを、参加して言葉で伝えたい。議会はそれを生かしてほしい。市民と議会・行政はうまくつながっていない。条例でうまくつなげたい。

2 班

- 一宮市民が主人公となり、まちづくりを自らすすめるためのしくみを定めるとともに、市政への市民参加の制度を定め、誰もが生きていてよかったと思える一宮市を実現することを目的とする。
- ・「市民が主人公」の「市民」の前に自分も一員だという意味の文言がほしかったが、よい言葉が思いつかなかった。結局、「一宮市民」とした。
 - ・「議会と行政」をどうやって入れるか？ 表現が難しく、結果として「市政」という言葉に議会・行政が入っていると考えた。
 - ・「市政への市民参加」には、一般市民と議会・行政のズレを埋めるために市民が係れるような仕組みを作っていくという意味を込めた。

3 班

- 人・自然・歴史を大切に、自立・協力できるまちづくりを実現する。
- ・個人や団体が自らの意見が「言える」・「聞ける」仕組み。その意見が市の中で流れる仕組み。
 - ・物を大切に。
 - ・自立した市民。

4 班

- まとまらず。
- ・地域の最小単位を活性化。
 - ・仕組みづくりが大切。
 - ・人と同様に「モノ(ex.緑や道)」もまちの構成要素。例えば、人と一緒に働く「緑」のような考え方、「緑」の権利と責務のような考え方(擬人化)があれば、大きな仕組みの中できちんと成長していく緑が位置づけられる。

<全体討議>

- 「市民が主人公」(2班)とあるが「主人公」とは具体的にどういうことなのか？
- ・例えば、総合体育館は本当に使えるか？
 - ・使えるから議会は通っているはず。
 - ・一人一人の市民にとっては、使い勝手がよいのか？ そういう市民の思いを理解してくれる、

取り上げてくれる行政であってほしい。個の意見を取り上げる行政であってほしい。

- ・今の産業体育館は中学生にとってはひじょうに使いづらい。だから、総合体育館の話が出てきたと思う。そういった個の意見はどうなるのか？
- ・ここで議論すべきは、体育館がよいか悪いかではなく、決定のプロセスをもう少し見えるようにしてほしい、ということでは？
- ・プロセスが見えやすくなるのが主人公になるということか？ 聞きたいのは、「主人公となり」という言葉使いがどういうことかということ。
- ・主人公とは、決定の主体者というイメージ。
- ・市民の気持ちが大事にされる、市民の思いが行政に反映される、そういうことが「市民が主人公」ということ。

総合計画は10年先を考えているが、それに合わせて条例を考えるということで参加しているが。

- ・総合計画は中身、条例は枠組みである。総合計画のように10年単位(期間を区切って)で考えないが、その中身に關わる条例の見直しは考えられる。
- ・条例項目の内容に入っていけば、関連性は出てくると思う。
- ・個別の事を考えるのではなく、市民の方が納得できる仕組みをどうつくるかを議論する場である。
- ・まちづくりに終点はないし、未来を描く仕組みにしたい。未来という言葉はどこかに入れたい。
- ・未来も大切だが、今をどう変えるのか仕組みを含めて考えたい。
- ・総合計画と条例の関係はないのでは。他の自治体の条例を読んでも基本条例と他の条例との整合性をもたせるようにしている。これから作る条例も基本になる条例にしていき、総合計画もこの条例に照らし合わせていくようになると思う。
- ・自分自身夢が描けないので、せめて条例だけでも夢が描けるけるようにしたい。
- ・今を批判するのではなくて、今後、どうして行くのかを考える。次はこういったやり方で決めてほしいということを条例に書き込む。
- ・目的はどうしても考え方が広くなる。主人公、まちづくり、仕組みなど人によって考えが違ふ。そこを決めていくことが一宮市らしさが出るのでは。2班の文章中の一宮市を置き換えればどこでも通用する。個別の項目を考えていけば、もっと議論が出るのでは。
- ・目的は、抽象的になってしまう。言われたようにまちづくりや仕組みなどは、条例項目の中で書き表されていくことで一宮市の特徴がでると思う。
- ・参考事例の伊賀市は、仕組みがあるので有効に活用していく。文京区は、仕組みがないので協働でいく。など、目的を作る前提議論をもう少しするべきではないか。

仕組みが市民・行政との協働を表していくかという論点になる。

- ・市民参加を取り入れていく。市民の権利を謳っていく。そういうものにしていきたい。
- ・市民には参加と権利があるとするか。仕組みを定めるとするか。協働、自立と書いた方が良いか。
- ・市民と行政が協働して行う事例があるか。(七夕祭りの開催、NPO講座などある)
- ・そうした事業を協働で、市民参加で推進していくことを強調してはどうか。
- ・市民と行政が一体となっていく市政に切り替わったことがわかる条例にしたい。市民参加だけでは弱い。
- ・パートナーシップよりは、市民自らが動きたい。
- ・協働は使いたくない。市が協働を言っているだけで、市民にやって欲しいといっているだけ。ひとつ(A案)は、市民が参加する権利を明確にして、市民自らがまちをつくっていくことを目的にする。もうひとつ(B案)は、市民も動くが、行政や議会との関係を明確にして、協力して

まちづくりをしていく仕組みを造ることを目的にする。自分たちがどこに力点を置くかである。

- ・質問ですが、議員も市民か。
- ・市民から選ばれる方であるとともに市民である。そのところも皆さんで議論する。
- ・A案は、「市民自らがまちづくりを担うための権利・責務を明らかにする」。B案は、「市民自らがまちづくりを担うための仕組み・制度を明らかにする」。といえるが、どちらも自治基本条例で考えていくことである。どちらに力点を置いた条例を作りたいかを決めたい。
- ・A案は12人、B案は10人の賛成である。市民の権利・責務に重点を置きたいという結果である。決定事項ではないが、今日、現在の皆さんの総意である。